

目指す学校像	『確かな学力』を育て『学びに向かう力』を高める学校 東小にかかわるすべての人が笑顔になる学校 子どもの成長をすべての大人が支える学校
--------	---

重点目標	1 教育DXを有効活用し、教育指導の一層の水準向上と『確かな学力』と『学びに向かう力』の育成 2 安心・安全な教育活動の推進と環境整備。ハード面にとどまらずソフト面の充実。 3 学校運営協議会を核とし、家庭・地域等との連携を図り、相互理解と信頼のもとにした学校教育の推進。 4 教師力の向上と機動力がありチームとして教育活動に取り組む教職員組織の構築
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標								実 施 日 令 和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
学力向上に関する取組	1	<現状> ○学力学習状況調査では、概ね良好な結果であるが、学年による違いはあると考えられる。 ○日頃の学習の様子から体験的な学習や調べたり、それらをプレゼンテーションしたりする学習には意欲的に取り組む児童が多い。 ○教職員の年齢構成はどの年代も平均的な構成であり、それぞれが学んだり学びあったりする組織である。 <課題> ○自分の考えをもち積極的に発信していくところに課題がある。「書くこと」に課題あり。 ○令和の日本型学校教育の理解を深め、タブレットを効果的に活用した授業、主体的対話的で深い学びの授業など今までの一斉授業を含めよき学びのための授業法を増やす。	①『確かな学力』をはぐくむための、学習の基礎基本の確実な定着 ②一人一台端末を有効活用した「個別最適な学習」と「協働的な学習」への挑戦	・「学びのポイント」を軸にした授業展開により、「学びの自律化」「学びの個別最適化」「学びの探究化」の実現を目指す。(『じしゃく』でつながる学び) ・学習への興味関心を高め、学力を定着のため「よい授業」の実践に努める。 ・シン・GIGAスクール構想の充実のため、①「学びの自律」と「個別最適な学習」、「協働的な学習」の実現を目指すため、一人一台端末を効果的・積極的に授業に取り入れる。 ②MicrosoftTeams を効果的に活用した指導及び業務の工夫を積極的に行う。	①学校改善に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②「学びのポイント」を軸とした授業を積極的に展開したか。 ③国語、算数について、全児童に対して学期に2回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ④調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、「書くこと」を授業に適宜取り言えることができた。					
	安心・安全に関する取組	2	<現状> ○学校評価からも「あいさつ」の励行については課題として多く挙げられている。 ○「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的に回答している児童は9割を超える。しかし、時期にもよるが登校をしぶる児童もいる。 <課題> ○多様性を認め、自分も周りの人も大切にできる資質を身に付けさせるための手立てを、学校組織として構築していく。 ○すべての児童、そして保護者、地域の方々が学校は居心地がよく、よりよき学校をつくってほしいという当事者意識を構築していく必要がある。	①安心できる場・居場所と生活の充実 ②安全教育的充実 ③教育相談の充実 学習スペースの確保 ④何事にも教職員組織としての対応 ⑤きれいな学校 ※ハード面にとどまらずソフト面の充実を図る	・徹底した児童理解と児童観察に基づく個に応じた教育に努める。 ・児童が安心して登校できる学年・学級経営を推進する。【「失敗してもOK」の雰囲気醸成】 ・「心と生活のアンケート」の計画的実施と結果の活用を図り、心のサポート、いじめ防止、不登校対策を推進する。 ・「自分の身は自分で守る」等の安全教育を推進する。また、「自助」「共助」が主体的にできる力を育成する。 ・学びやすい教育環境の提供を図る。 ・施設設備の計画的な整備、修繕と安全点検の徹底に努める。 ・美しい教育環境づくりに努める。	①学校改善に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校改善に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③学校改善に係るアンケートに「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する児童の割合が80%以上となったか。				
		3	<現状> ○昨年度よりコミュニティ・スクールとして、目指す児童像についての熟議を重ね、協働して課題を解決していく児童、自ら挨拶ができる児童を地域全体ではぐくんでいくことを共有してきた。 <課題> ○学校運営協議会で共有したことを、学校職員、家庭、地域等で共有していくようにする。 ○ポストコロナにおいて学校を開放し日々の教育活動を見ていただく体制づくりをすすめる。 ○学校の教育方針を保護者、地域に伝えるたり対話したりする方策を考え、「共育」を進める。	①学校運営協議会(コミュニティスクール)の充実 ②情報の共有化 ③学校教育への保護者や地域の方の参画 ④学校評価改善アンケートの充実	○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の推進 ・開かれた学校づくりを推進する。【学校教育活動公開、授業公開、学習ボランティア等の構築など】 ・学校の情報発信による信頼・安心・安全の獲得に努める。 ・学校・家庭・PTA・地域が連携したSSN(スクールサポートネットワーク)の充実を図る。 ・家庭、地域等との「きょういく」を推進 ・学校改善アンケートの実施による不断のよりよき学校づくりに努める。	①学校改善に係る地域住民・保護者アンケートで「地域の子どもの成長のためには、自分にも役割がある」と肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ②学校運営協議会で熟議された結果に基づいた地域学校協働活動の共有及び活動内容の改善について議論するために、学校運営協議会の年3回開催に加え、SSN協議会を年2回開催する。				
	教職員の資質向上に関する取組	4	<現状> ○令和2～4年度まで体力向上について研究指定を受け、コロナ禍においても児童の体力を維持向上させ、教職員がチームになり意識高く取り組んだ。 ○教職員の年齢構成はバランスよいが、やや経験の浅い教員が多い。経験値が多岐にわたる。 ○ICT 機器に長けたるエバンジェリスト等が多く積極的に ICT を使用して業務を遂行している。 <課題> ○ICT の授業における活用について、教員間で取組の差はある。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○教科担任制実施により、担当教科についてより深い教材研究を行うことができてはいるが、学校全体で教科担任制について共有する必要がある。 ○業務に関して負担感や多忙を感じている割合は市平均より下回っているが8割5分を超え、時間外在校時間は全体的に長くなっている。(やりがいや満足感は9割5分を超えている)	①自らの学びによる、授業力・指導力の向上 ②人とかかわりを大切にした、コミュニケーションの高揚 ③組織の一実践者として、共に高め合う意識の醸成 ④働きやすい、働きがいのある職場構築	・学校経営方針を基本スタンスに、全教職員がチームとしての全教育活動展開を図る。【貢献・きょうどう(協働、共働、共働、共同、協同)を基盤とした組織】 ・「授業を見せ合い議論する」職員室文化の醸成とOJTの実践に努める。を図る。【教師間の学び合い・切磋琢磨】 ・学校課題研修の充実を努める。【個人課題を設定した自ら学ぶ研修の取組】 ・学級担任制からチーム担任制への転換 ・業務改善を意識した仕事への取組 →スクラップ&ビルド 見える化の実現 会議の効率化(時間、内容、進め方等) 仕事のシェア チーム(組織)としての対応 等	①全ての教員が「学びのポイント」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善・研修に取り組み、結果として90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③タイムマネジメントを意識し業務にあたり、やりがいや満足感をもちながらも時間外在校時間の縮減に努めたか。				

